

令和7年度第2回伊達市地域公共交通活性化協議会

—議事要旨—

■日時：令和7年10月1日（水）午後2時00分から

■会場：伊達市役所東棟4階 401会議室

■出席委員：

番号	関係団体	委員職名	氏名(敬称略)	協議会 職名	備考
1	伊達市	市長	須田 博行	会長	
2	福島大学	経済経営学類	村上 早紀子	副会長	
3	国土交通省東北運輸局福島運輸支局	首席運輸企画専門官	日脇 渚彩		
4	国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所	調査課長	鷹木 譲		
5	福島県保原土木事務所	所長	國分 彰成		
6	公益社団法人福島県バス協会	専務理事	宍戸 紳一郎		
7	福島交通株式会社	福島支社乗合営業課長	八巻 健		
8	一般社団法人福島県タクシー協会	県北支部長	大村 雅恵		
9	伊達地区タクシー協議会	会長	寺島 大樹		
10	伊達市商工会	会長	渡邊 武		
11	保原町商工会	会長	佐藤 晃司		
12	私鉄福島交通労働組合	福島支部長	国嶋 章		
13	伊達川東地区協議会	会長	佐藤 富雄		
14	梁川町自治組織連絡会	会長	名谷 勝男	監査	
15	月舘地域自治組織連絡協議会	副会長	矢舘 実也		代理
16	伊達市婦人会連合会	上保原婦人会長	遊佐 範子		
17	伊達市社会福祉協議会	常務理事	原 好則	監査	

■事務局：

伊達市市民生活部 部長

野田 善和

伊達市市民生活部生活環境課 課長

菊田 純一

伊達市市民生活部生活環境課生活交通係長

橘内 悠司

次第：

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事 議案第1号 路線バス「大波経由掛田線」の運行経路の変更について

4 その他 今後の公共交通の再編について

5 閉 会

■資料：

・ 次第

・ 伊達市地域公共交通活性化協議会委員名簿

・ 資料1_路線バス「大波経由掛田線」の運行経路の変更について
路線バス網図
道の駅伊達の郷りょうぜん、バス乗り入れ案

・ 資料2_今後の公共交通の再編について

■議事要旨：

【会長あいさつ】

会長：本市の路線バスやタクシー、鉄道等の公共交通に関しましては、少子高齢化や人口減少による利用者の減少などから厳しい経営状況が続いております。

そのような中、阿武隈急行線に関しましては、在り方検討会での提言を受け、福島県、宮城県を中心に、有識者や沿線自治体に参加する阿武隈急行線地域活性化検討分科会で抜本的な経営の改善に向けて進み始めております。

また、本市においては、2026 年下期にイオンモール伊達の開業が予定されており、商業施設周辺の渋滞対策にも地域公共交通の役割がますます重要になると認識しております。特に市内を運行する路線バスや地域内交通としてのデマンド交通の改善は、地域公共交通を考える上で大きな転換期と考えています。

さらには、運転免許証を返納しても市民の日常生活の移動手段が確保できるよう、また、高齢者の交通事故防止の観点から、関係機関が一丸となり、持続可能な地域公共交通網を形成していくことが必要であると考えておりますので、関係者や関係機関の皆様にはさらなるご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本日は、伊達市地域公共交通計画において広域都市間交通として見直しをすることとしておりました、「路線バス大波経由掛田線」の運行経路の変更に関する議案についてご審議いただくこととなっておりますので、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【議 案】

事務局より資料 1 に基づき議案第 1 号について説明

渡邊委員：提案そのものは賛成だが、道の駅の開業から 7 年経過しているが、この間は検討してこなかったのか？また、近隣のバス停から道の駅を利用している人数は把握しているのか？

事務局：道の駅の乗り入れについては、令和 2 年策定の地域公共交通計画にも記載しており、当時から検討を重ねてきている。近隣のバス停からの人数は把握していないが、路線全体としては年間約 87,000 人の利用者がいるので、こちらの利用者について期待しているところである。

渡邊委員：バス停の位置については、会津バスが使用していたところ、ということであったが、待合所まで少し距離があるが、もう少し近いところはないのか。

事務局：バス停の場所については、国土交通省と協議中である。歩行者の安全やバスの回転等も含めて検討を続けていきたい。

遊佐委員：乗り入れによって、これまでの利用者に時間の遅れなどは発生しないのか？

事務局：乗り入れした場合には、回転や乗降を考え 5 分から 10 分程度運行時間がのびると想定している。影響が最小限となるよう、運行事業者である福島交通㈱と進めていきたい。

国嶋委員：渋滞対策は何か考えているか？今年、国見の道の駅で桃の販売をしていた時期には最大で2時間ほどバスの遅れが生じた。そういうことがないよう、バスを優先して通らせてもらえるような配慮を検討できないか。

事務局：道の駅りょうぜんにおいても大変人気のある施設で、日ごろから渋滞があることは認識している。今回の乗り入れに関して、道の駅側とも協議をしている。その際にも渋滞の対策が必要だという声は上がっている。イベント開催時などは国道115号線から渋滞することも聞いている。引き続き協議を続けていきたい。

原案のとおり承認

【その他】

名谷委員：中山間地では特に高齢化が進んでおり、路線バスが廃止されている地域において高齢者の足がないという状況にある。そのため、ライドシェアの実証実験を行っている経緯がある。地域独自で運営していくには、車の購入など経済的な支援が必要である。市で援助してもらえないか。

事務局：特に路線バスが廃止された地域において、高齢者の足の確保が課題となっていることは認識している。この部分については、デマンドタクシーの利用を推奨している。

名谷委員：デマンドは利用しづらい。土日は運行していないので、買い物や地域の会合などに利用することができない。ライドシェアを行った際には、マイカー利用になると頼みづらいなどの意見が出された。デマンド交通も土日も運行するなどあり方について検討してほしい。

会長：地域公共交通というものは、鉄道やバス、タクシーなどさまざまなものがあり、それぞれの場面場面で選択して利用していただいている。こういった状況で救えない人々をカバーしているものがデマンド交通である。ただ、それでもカバーしきれない人々もいると思うし、それを補うために富野地区では支え合い交通を実施した。その実証ではさまざまな課題があったと思う。まずはそれを出していただきたい。ライドシェアはエリアを決めて使っていくものであり、地域公共交通機関がある地域では基本としてそちら利用としていただきたい。それらを踏まえたうえで、今後どうしていくべきか検討していきたいと考えている。

事務局より資料2に基づき、今後の公共交通の再編について説明

村上委員：（仮称）鉄道アクセス線の導入の目的や背景について教えてほしい。既存路線と重なる部分もあると思うが、その辺りはどう考えているか？

事務局：令和2年に策定した伊達市地域公共交通計画に位置付けており、その段階から検討を続けてきた。東北本線と阿武隈急行線との鉄道間をつなぐものである。JR伊達駅や保原駅などの各駅以外にも、大型商業施設や医療機関、伊達市役所などを通る予定であり、利用者の利便増進を図るものである。ルートについてはまだ確定していないが、新たな利用者の掘り起こしなども踏まえて、従来の路線には必要以上に重ならないように設定していきたいと考えている。

村上委員：総延長はどのくらいか。

事務局：JR 伊達駅、大型商業施設、北福島医療センター、阿武隈急行線高子駅、上保原駅、保原駅、伊達市役所などを通る総延長 11.8 km のルートを予定している。乗降時間を含めて 40 分くらいの運行時間を見込んでいる。

日協委員：地域における公共交通の課題としては、輸送資源の不足というものがよく挙げられる。伊達市には阿武隈急行線もあることから、こういったものも生かしながら、大型商業施設の開業も一つの機会と捉えて、今後も地域公共交通の利用促進につなげていただきたい。

渡邊委員：地域公共交通計画によれば、デマンド交通の一本化もあげられているが、現在どのような状況なのか。

事務局：地域の足としてデマンド交通の再編は重要事項として認識している。昨年度からは利用料金の見直しを行っている。今後は予約窓口の一本化などを目指して調整を進めている。今後、内容を詰めて本協議会でも諮っていきたいと考えている。

渡邊委員：市民の利便性向上に向けて、引き続き進めていただきたい。

(～午後 2 時 45 分)